

6-1 整備手法、運営方式等に係る検討

現時点においては、新学校給食センターの用地及び規模について検討されてきました。
また、施設整備・管理運営手法については、検討協議しましたが、総合的に勘案すると合併特例債、学校施設環境改善交付金等を財源として市が直接建設することを前提にすることが検討委員会で協議されています。

項目	用地所有	資金調達	施設		維持管理	運営
			所有	建設		
従来型	公共	公共	公共	公共	公共 (一部委託)	公共 (一部委託)

6-2 整備スケジュールの検討

整備スケジュールは、早期整備に努め、できる限り早い時期に新たな学校給食センターを建設します。

今後の整備スケジュールの概要は次の通りです。

項目	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
用地選定	→			
整備計画策定		→		
基本実施設計 (測量・造成共)			→	
建設				→
共用開始準備				→ 2ヶ月間程度
共用開始				→ 2学期供用開始

6-3 事業費

学校給食センター施設整備に係る事業費は、用地取得費、本体工事費、厨房機器に係る費用、備品及び消耗品等購入費、インフラ整備費などが想定されます。また、それ以外にも各種計画策定委託費、設計業務委託費、工事監理業務委託費、既存厨房の解体工事費等が見込まれます。

用地については、市所有であります。

本体施設工事費、厨房機器等については、今後のステップである基本設計の中で精査します。

一方で、厳しい財政状況の中で、持続可能な財政運営を長期的にも実現し、効果的・効率的な検討を行います。

また、厨房機器の選定にあたっては、出来る限り使用可能な既存の器具を再利用し、既製のものを選択するとともに、一括購入ではなくリース契約による対応も検討します。

6-4 発注形態比較

工事発注方法について検討します。

発注方法	概念図	特徴
建築・設備・厨房 分離発注		<p>■特徴 各工事を分割して発注・契約する。自治体の発注業務量は最も多い。</p> <p>■長所 設備機器・厨房機器が自治体の管理下となるため、仕様・品質のチェックを直接行う事が出来る。</p> <p>■短所 各工事との取り扱い調整が必要である。仕様書等で工事区分を明確にする必要がある。工事完了後においても不具合が生じた場合、責任の所在が明確にならない場合もある。</p>
建築・厨房 分離発注		<p>■特徴 建築工事に電気設備、機械設備が含まれ、厨房機器は分離である。</p> <p>■長所 厨房機器が自治体の管理となるので、仕様・品質のチェックを直接行う事が出来る。</p> <p>■短所 厨房機器の各工事との取り扱い調整が必要である。仕様書等で工事区分を明確にする必要がある。電気、機械の仕様については価格優先の選択になりやすく品質の確保については入念なチェックが必要である。</p>
建築・設備 分離発注		<p>■特徴 厨房機器が建築工事に機械設備工事に含まれる。自治体の発注業務量は比較的少ない。</p> <p>■長所 電気設備、機械設備が自治体の管理になることから、仕様・品質のチェックを直接行う事が出来る。</p> <p>■短所 各工事との取り扱い調整が必要である。仕様書等で工事区分を明確にする必要がある。厨房機器の仕様については価格優先の選択になりやすく品質の確保については入念なチェックが必要である。</p>
建築・設備・厨房 一括発注		<p>■特徴 全て建築工事に含めて発注する。自治体の発注業務量は最も少ない。</p> <p>■長所 施工管理は建築工事業者が一括して行うため、工事の取り扱いについては問題が発生しにくい。</p> <p>■短所 設備、厨房機器の仕様については価格優先の選択になりやすく品質の確保については入念なチェックが必要である。厨房機器の仕様書を作成し、品質管理できる体制を構築する必要がある。</p>